

東洋システム

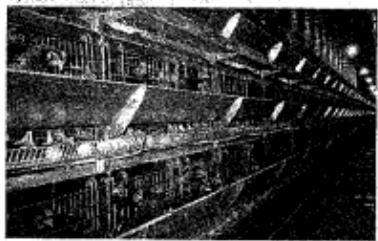
70セン間口シリーズ

ハ
イ
メ
ッ
ト
ム

順調に伸びる



70セン間口のウイスクを採用した関東地区の農場の外観



間口がゆったり感じられる70セン間口シリーズ（中部地区農場）

東洋システム（安田
勝彦社長・本社・岐阜県
各務原市金郷町地九七一
四、電052903-6300・
11-5505）で米国・カ
ナダなどで採用が始まっ
た。

70セン間口のハイ
テクサルメントヘルトケ
ージを四年前に発表し
てから七年が経過する。
二年前にそのシステムの
第一号が関西地区で採用
され、今後、西日本・東
北地方で順調に実績を伸ばしてい
る。

七年間口の場合、奥
行きは五十六ヶージで、
白色繩十羽（生活スペー
ス三九二平方㍍）、赤玉
鶏九羽（同四三六平方
㍍）が標準収容羽数とな
るが、いずれの養鶏場
からも共の廿間口ケージ
と有意味のない成績が報
告されている。

そこでではケージを使用
する場合、動物愛護の問
題に実績を伸ばしていく。
これは最近のトリの群
特性が向上しているた
めと考えられるが、東洋
システムでは、メイン
リーズの五〇セン間口に加
えて、今後、羽量たり段
階投資コストが有利な七
〇セン間口ケージのシリ
ズ化（ハイテク、エアペ
イフを含めて通風換気接
続から二〇一二年の設置
までストが取り付けられ
る）など間口仕様が一般的
にならつてある。この場
合の一ケージ当たり羽數
は二十羽前後になるが、一
ケージ当たりの羽數増
加による成績変化は見ら

れないと言わせてくる。

これは最近のトリの群
特性が向上しているた
めと考えられるが、東洋